

REI MEI

vol.42
No.4

Kagoshima Prefectural Museum of Culture Reimeikan

鹿児島県歴史・美術センター黎明館だより「黎明」

Contents

特集
企画展

新収蔵品展

調査史料室だより

令和6年度刊行の県史料紹介

研究ノート

薩州家島津義虎について

Anniversary Year! 今年は〇〇周年!

新納忠之介 没後70年

川上南溟 生誕110年

学芸員EYES! 第12回

軽石製蔵骨器

黎明館のフカボリ®

敷地散策のススメ 御野立所跡の碑

特集

企画展

新収蔵品展



和田英作筆 パラ

藩主が奉納した 絵馬



島津斉宣奉納絵馬

9代藩主島津斉宣が寛政2(1790)年に奉納した、鷹が鶴を捕らえた場面が描かれた絵馬。斉宣は前年に参勤交代で鹿児島に初入部しました。奉納先については不明です。

見事な細工の 薩摩鐺



無銘(小田直教) 蓮に蛇透鐺

特集 | 企画展

近年收藏した3つの分野の資料
お見せします

新收藏品展

令和7年3月11日(火) — 6月1日(日) | 企画展示室/日本画・書展示室(黎明館3階)

歴史 *History*

民俗 *Folklore*

美術・工芸 *Arts and Crafts*

黎明館は、鹿児島の歴史・文化に関わる資料や作品を寄贈・寄託・購入によって収集・收藏しており、現在、その数は約18万点にも及びます。所蔵者が代々大切に受け継いできたものであり、鹿児島の歴史を今日に伝えるうえで、貴重な資料です。しかしそのなかには、これまで展示の機会にめぐまれてこなかった資料もあります。本企画展は、近年收藏した資料や、未公開資料を中心に光をあて、歴史、民俗、美術・工芸の分野ごとに展示し、関連資料も交えて資料収集の成果について紹介します。

観世音菩薩
お顔に注目



薩摩国地理志

江戸時代後期に薩摩藩で編さんされた地誌で、薩摩藩の代表的地誌として知られる「三国名勝図会」に先立つものです。当館の他に県内の2館のみに写本が保管される、貴重な資料です。



薩摩の 地誌 がよくわかる

丸十紋
が映える白薩摩



白薩摩丸十紋獣耳花瓶

嘉永3(1850)年の年紀に加え、当時薩摩藩が殖産振興策として取り組んでいた苗代川焼物所経営の責任者村田甫阿弥を筆頭に、監督した人々の名前が記されています。当時の薩摩焼生産体制と白薩摩の姿を雄弁に語る希有な作品です。

刀のコレクションに仲間入り

脇指：銘 波平行周^{ゆきちか}

これを提げてどこへ行こう？

提げ重

スライド式の蓋を開けると、中には重箱や錫製の酒器が収められています。蓋の中には取り皿と箸も収納され、機能的バツグン。花見などの行楽の際に、家庭で準備した酒やごちそうをつめて持ち運びました。



縮緬地御所解文様打掛

明治24(1891)年頃、鹿児島市で呉服店を営んでいた商家の長女の婚礼衣装として詠えられたもの。赤地に白雲を散らし、縮緬地に型染めと手描き友禅、金糸の刺繍を駆使して艶やかに贅をつくした作。

まさに豪華絢爛



迫力の噴火を描く

霧島山新燃絵図 個人蔵・黎明館保管

絵図中の記述から、享保元(1716)年に噴火した霧島新燃岳の絵図であることがわかります。喜入領主肝付家に伝来したもので、広範囲に深刻な被害をもたらしたことがわかります。



見入ってしまう
寿老人



佐多椿斎筆^{ちんさい} 円窓寿老人図^{えんそう}
個人蔵・黎明館保管

関連イベント | 学芸講座の申込詳細は、ホームページまたはチラシをご覧ください。

□ 学芸講座(展示解説講座)

①「新収蔵品展」

| 講師 | 黎明館主査 坂口 洋幸 他
| 日時 | 3月22日(土) 13:30 ~ 15:00
| 会場 | 黎明館3階 講座室

事前申込制(電子申請または往復ハガキ)
【応募期間:2月20日(木)~3月6日(木)】

講座後に展示解説を行います(要団体入館料)

②「新収蔵品展 -近・現代資料を中心に-」

| 講師 | 黎明館主査 坂口 洋幸
| 日時 | 5月10日(土) 13:30 ~ 15:00
| 会場 | 黎明館3階 講座室

事前申込制(電子申請または往復ハガキ)
【応募期間:決まり次第ホームページ等で告知】

講座後に展示解説を行います(要団体入館料)

□ 展示解説

| 日時 | 3月20日(木・祝)
4月19日(土)
5月24日(土)
各日とも13:30 ~ 14:10

| 会場 | 黎明館3階 企画展示室 (要入館料、事前申込不要)

令和6年度刊行の県史料紹介

黎明館調査史料室では、今年度末に刊行する『鹿児島県史料』の校正作業に取り組んでいます。これまで刊行してきた『鹿児島県史料』は、今回紹介する2冊を加えて110冊を数えます。また、ホームページには令和2(2020)年度刊行分までの『鹿児島県史料』102冊分のPDFも公開しています。あわせて御活用ください。

以下では、今年度刊行予定の『鹿児島県史料』(2冊)を御紹介します。

『旧記雑録拾遺 神社調四』

「神社調」は、薩摩藩の領域であった薩摩・大隅・日向諸県郡の寺社の由緒・関係文書・歴代住職名などを郡郷ごとに編纂したものです。本年度刊行の『神社調四』には、以下の地域に関する内容を収めました。

- (1)「薩摩国^{さつま}之部 十二」 伊作 阿多 田布施
- (2)「薩摩国^{さつま}之部 十三」 田布施 永吉 吉利 日置 島方 琉球
- (3)「大隅国^{だいご}之部 一」 蒲生 重富 帖佐
- (4)「大隅国^{だいご}之部 二」 加治木
- (5)「大隅国^{だいご}之部 三」 国分之上
- (6)「大隅国^{だいご}之部 四」 国分之中

※ いずれも東京大学史料編纂所蔵

今回登場する地域には、島津家中興の祖と称される忠良(日新斎)の生家・伊作家の本拠地である伊作郷や、その子・貴久が誕生した田布施郷、関ヶ原の戦い後に貴久長男・義久が隠居した国分郷、その弟・義弘が隠居した加治木郷が含まれ、掲載記事は、戦国島津氏に関する様々なエピソードに溢れています。例えば、帖佐郷の滝山心岳寺の項では、「貴久公三男左衛門督歳久入道晴菴」「御生害之場所」に龍伯公(義久)が歳久の菩提寺としてこの寺を創建し、併せて「御供(殉死者)二十四人之(位)牌」を供養したことが記されています。次に、国分郷の富隈城内に建立された猫神大明神には、朝鮮出陣に際し義弘長男・久保が召連れた愛猫が、「又市郎(久保)様彼地ニ而御逝去之砌、御跡を奉慕餓死仕」つたため、この愛猫を祀っていることが紹介されています。また、国分郷の記録には、「国分御上様」という人物がよく登場しますが、これは義久三女・亀寿のことで、彼女は父・義久の晩年を共に過ごし、最期を看取った後も国分の地を居所としました。亀寿は、幼くして死別した母・妙蓮(種子島時堯女)が「其宗旨(法華宗)の御弔をもなされす」にいたのを心残りに思い、もとは本成寺という法華宗の寺を鷲峰山勸持院遠寿寺として再興し、父母の位牌を安置し、厚く供養したことが記されています。

他には、古歌に詠まれた名勝地として、国分郷府中村(現霧島市国分府中)の「気色^{けしき}の杜」と、同郷内村(現霧島市隼人町内)

の「奈毛^{なげき}木の杜」が紹介され、西行法師や細川幽斎といった著名な人物の和歌が多数収録されています。

『市来四郎史料五』

昨年度に引き続き、東京大学史料編纂所蔵の「旧邦秘録」元治元年四～九(巻一〇～巻二六)を『市来四郎史料五』として刊行します。

「旧邦秘録」は市来四郎が編集し、島津久光が加筆した編纂物で、文久二(1862)年が7巻3冊、同三年が24巻10冊、元治元(1864)年が32巻10冊、合計63巻23冊から成ります。他に「中稿旧邦秘録」が63巻23冊、「旧邦秘録材料」が188冊あります(すべて東京大学史料編纂所蔵)。

本書には、元治元年7月の禁門の変、第一次幕長戦争、8月の四国艦隊下関砲撃事件など重要な出来事に関連する史料が満載です。

以下、目次の一部によりながら本書の概要を御紹介します。括弧内の算用数字は文書番号を表します。

「元治元年 四」(巻一〇～巻一二)

長州藩下関ニ於テ外国軍艦ト砲戦ノ形勢ニ付長崎報告(24)・馬関へ夷船廻寇ノ形勢横浜概況(32)・長藩京師暴動ノ形勢小松帯刀報告(45)

「元治元年 五」(巻一三～巻一五)

幕府大目附永井主水正御目附戸川半三郎等ヲ伏見ニ遣シ長藩国老福原越後撤去セシム(58)・坊城中納言殿ヨリ長藩吏乃美織江ヲ召シテ討伐ノ勅旨ヲ達セラル(88)・長侯大膳父子ヨリ家老国司信濃へ与エタル軍律条書(97)

「元治元年 六」(巻一六～巻一八)

毛利家一族及ヒ末藩ノ官爵ヲ奪ヒ大膳父子ノ偏諱及ヒ松平ノ号ヲ奪フ(108)・長賊関下暴動ニ於ケル各藩鎮撫へノ褒勅及ヒ薩藩布達(111)・長藩士及ヒ浮浪犯関ノ事実ニ付尹宮御親話等市来広貫筆記(124)

「元治元年 七」(巻一九～巻二一)

禁関之变ニ付芸州公ヨリ長州歎願書執達ノ書(136の1)・英仏米蘭四ヶ国ノ軍艦十八艘長州下関ニ来侵ノ転末(149)・毛利大膳大夫冤ヲ訴ンカ為メ芸州侯ニ依頼シ捧呈スル書(167の1)

「元治元年 八」(巻二二～巻二五)

牧野備前守様御宅ニ於テ長州へ罷越候英仏米蘭四ヶ国ミニストル建言(176)・九月十六日京師報告別紙長戦新聞等三冊京都詰御家老座書役ヨリ送付(190)・戦争和睦ノ儀ニ付水師提督クープル等ヨリ長州侯へ申立候約定書(194)

「元治元年 九」(巻二六)

長州征討ニ於ケル薩藩攻口ニ付大島吉之助ヨリ総督尾州侯へ呈出ノ書(206)・幕吏勝安房守当時態嘆慨ノ稿(218)

(巻二七に続く)

薩州家島津義虎について

主査 吉峯 真太郎



島津義虎像(部分)

中世島津家には、薩州家という分家があった。島津本宗家9代当主・忠国の弟である用久を祖とし、代々薩摩守を称した。薩州家4代の忠興は娘を本宗家14代勝久に嫁がせ、他に祢寝氏、種子島氏、新納氏とも姻戚関係を結ぶなど、勢力を伸ばした家である。今回、その薩州家6代当主の義虎について紹介したい。

義虎は先代の実久の嫡子であるが、その動向についてはあまり詳しく知られていない。父の実久は、強大な勢力をもち、現在の出水市から阿久根市、薩摩川内市、また加世田・川辺・枕崎地域なども治めたことで知られる。その後、勝久の後継の地位を巡る争いで相州島津家の忠良・貴久親子に敗れ、川内川以南の領地をすべて失い、従うことになる。後の本宗家に敵対し、その地位を脅かした実久は、近世後期に編まれた『本藩人物誌』で「国賊伝」の筆頭に挙げられるのである。



『本藩人物誌』

その息子の義虎は、天文5(1536)年5月1日に誕生した。幼名は初千代、初名晴久、陽久で、「永禄六年亥上洛イタシ大樹義輝公江御目見仕、御諱ノ字ヲ致拝領義俊ト改名」(*)し、その後義虎と名のつた。父である実久と違い、『本藩人物誌』では国賊の部ではなく本伝に載せられ、貴久・義久らとの融和・協調路線を選んだと言われている。しかし、実久が敗れて本宗家に従うようになるのは義虎3才の時であって、17才の時に実久が死んだ後、勢力を伸ばしていた義久に抵抗するだけの力は無かったとも言える。また、永禄8(1565)年ごろに義久の長女御平との婚姻関係が成立し、関係性は固まった。

同じ年、「長島領主天草越前守ヲ攻殺候て、長島致横領候」(*)と長島を手に入れる。そして、義久の日向制圧、肥後進攻を支えていくことになる。敗れはしたが同11(1568)年には義久・義弘とともに大口で戦い、元亀元(1570)年には、従来島津氏に抵抗し続けてきた渋谷一族が降伏したことで、水引・中郷・西方・湯田・京泊及び大口の山野が与えられる。その後も数々の戦で義虎軍は活躍しているのである。特に「肥後合戦陣立日記」(旧記雑録後編一・1166号)では天正9(1581)年の水俣城主相良義陽との戦いで、

(前略)

御本陣勝泉ヶ岡 出水 川上ト申也
濱平
太守義久公 御大将 宮之城 後陳大将 出水
嶋津左衛門督歳久 薩州義虎
脇ノ将 串良 上同
嶋津圖書頭忠長 佐多伯耆守久将

(後略)

と後陣の大將として名前を挙げられている。

しかし、ここまでの間に本宗家との間にトラブルも起きている。天正2(1574)年、38才の時には謀叛の噂が流れ、義久に弁明している。その噂を流したのは義久弟・家久だと主張して使者を何度も送り、起請文も提出して解決した。その後の家久の日記『中務大輔家久公御上京日記』には、上京途中、義虎の領内に入った家久が、義虎から歓迎された様子が記されている。「義虎私邸へ入御候テ、夜更迄酒宴」、翌日には「義虎へ馬進候、(中略)義虎も舟めされ、酒宴様々にて脇刀、とうふくあつかり候、」とあり、仲も改善されていることも興味深い。

そんな義虎も天正13(1585)年に病気で没した。義虎の跡を継いだ長男の忠辰は戦わずして豊臣秀吉に降伏し、朝鮮出兵では命令に従わずに改易され、薩州家は断絶することになる。祖父に当たる実久と同様、『本藩人物誌』では「国賊伝」に掲載されている。ただ、薩州家の血は別の形で島津本宗家へ引き継がれていく。義虎の三男忠清の娘が、二代藩主光久の生母となるのである。

現在、出水市歴史民俗資料館には県指定・有形文化財に指定された「三十六歌仙絵扇額」が保管されている。その裏面には「奉寄進愛宕山大権現御寶前 藤原義虎 天正五年丁丑六月廿四日」とあり、義虎が天正5年に愛宕神社に奉納したものであることが分かる。和歌の部分を揮毫したのは摂関家筆頭の近衛家、前久である。近衛前久は織田信長の要請により、大友氏、伊東氏、島津氏の和議のために九州に下向したと言われている。その際、出水の専修寺に滞在し、義虎の接待に満足した記録も残っている。室町幕府の将軍から「義」の字を受け、島津のために数々の戦を経験し、近衛家ともつながりのあった義虎の息吹を、北薩では現在でも感じることができるのである。

(*)…『本藩人物誌』より

<参考文献>

- ・新名一仁編『戦国武将列伝II 九州編』2023 戎光祥出版株式会社
- ・川口素生『Truth In History24 島津一族 無敵を誇った九州の雄』2011 新紀元社
- ・棚野作人『さつま国誌 戦国・近世編』2011 南日本新聞社
- ・『出水郷土誌』2004 出水市郷土誌編集委員会
- ・下原美保「愛宕神社旧蔵「三十六歌仙絵扇額」について」『鹿児島大学教育学部研究紀要 人文・社会科学編 第61巻』2010
- ・鹿児島県史料刊行委員会『鹿児島県史料集XIII 本藩人物誌』1973 鹿児島県立図書館
- ・『鹿児島県史料 旧記雑録後編一』1980 鹿児島県歴史資料館



島津義虎肖像の讃文

仏師 新納忠之介が亡くなって(昭和29(1954)年)から

70年

令和6年は、明治・大正・昭和の時代に全国の仏像等の修復に尽力した
仏師新納忠之介が亡くなって70年でした。

新納は鹿児島市生まれで、幼名を惣次郎といい、古拙と号しました。東京美術学校(現東京藝術大学)彫刻科を卒業、同校教授、中尊寺金堂仏像修理主任、内務省古社寺保存委員会委員、国宝保存委員会委員、日本美術院第二部(彫刻)主任、院展審査員及び文展審査員などを務めています。昭和21(1946)年まで国宝修理に専念し、2631点の古美術、特に仏像、神像の修理に当たり、多くの後継者を育てました。



不動明王坐像(部分)

高30.0cm

三重県田宮寺不動明王の模刻

新納は、飛鳥時代や奈良時代の仏像や鎌倉時代や室町時代など、その時代によって制作様式の異なる仏像を次々と修復しました。仏像や神像にとっては、スーパードクターのような存在だったのです。

木造観世音菩薩立像

高40.0cm

昭和31(1956)年

新納は、仏像を修復するために、伝統的の仏像彫刻の技法を研究しました。その方法は、修復する前に仏像を模刻(仏像と同じものを作る)することというものでした。そうすることで、痛んでいる仏像のどこをどのように修復したら良いのかわかったというのです。



美術・工芸

書家 川上南溟が生まれて(大正4(1915)年)から

110年

令和7年は、川上南溟が誕生して110年です。

川上南溟(1915-1999)

は、本名を栄(さかえ)といい、大島郡徳之島町母間に生まれ、鹿児島師範学校で書を堀井鶴畔(ほりい かくはん)に学びました。短期兵役の後、鹿児島市立川上尋常小学校などで教職を務め、昭和22(1947)年県立第一高等女学校教諭、同24年県立鶴丸高校教諭、その後鹿児島大学で書を教えています。

書家としては、同25年に、辻本史邑(つじもと し ちゆう)に師事、同36年には、青山杉雨(あおやま きん うえ)に師事しました。日展に出品すると特選を受賞(2回)し、審査員を務めると同61年には会員となり活躍しました。また、鹿児島の書道界では、南日本書道会の競書誌「書林」の手本を37年間書き続け後進の育成に尽力し、同47年には、南日本文化賞を受賞しています。



高村光太郎詩 カフェにて

改組 第2回日展特選
昭和45(1970)年

蘇東坡詩 和董傳留別

改組 第7回日展特選
昭和50(1975)年



人間の心の影のあらゆる隅々を尊重しよう
卑屈も猜忌も惨憺も勇氣も温良も踴躍も
それが自然であるかぎり 高村光太郎の詩より

粗繪大布裹生涯 腹有詩書氣自華 厭伴老儒烹瓠葉
強隨學子踏槐花 囊空不辨尋春馬 眼亂行看擇
堵車 得意猶堪誇世俗 詔黃新濕字如鴉

調和体(漢字とかなの文字構成)、漢字作品と2部門で特選を受けた例は少ないと言われます。

美術・工芸

火葬骨を収めた容器

蔵骨器とは、火葬骨を収めた容器のことです。

日本で火葬が始まったのは、奈良時代に入る少し前の700年のこととされています。

『続日本紀』には文武4(700)年に僧道昭によって天下の火葬は始まったと記されています。やがて仏教文化の浸透とともに、火葬や蔵骨器も広まっていったと考えられ、鹿児島県

においても、古代(8~10世紀)の蔵骨器が60数箇所確認されています。

材質は須恵器製、土師器製、陶器製、軽石製などがあります。

写真の蔵骨器は、軽石製で、鹿児島考古学の先駆者・寺師見國氏[大口(現伊佐市)の医師]が患者の家からの連絡により採集し、寺師氏亡き後、三島格氏によって報告されたものです。この蔵骨器は、口縁部に蓋受けの段が見られるので、蓋が被せられていたと考えられていますが、蓋は現存していません。

また蔵骨器には石製の外容器が存在するものもありますが、これは石製ですが外容器ではなく、蔵骨器としてそのまま使用されていたと考えられます。発見当時は人骨とともに黒土が入っており、副葬品はなかったと報告されています。

蔵骨器の中で、軽石製のは、県内では出土例がなく、非常に貴重なものといえます。さらに県内で多く産出する軽石を用いたという点で特徴的なものといえます。

主査 竹添和寿(先史・古代担当)

黎明館のフカホリ 15

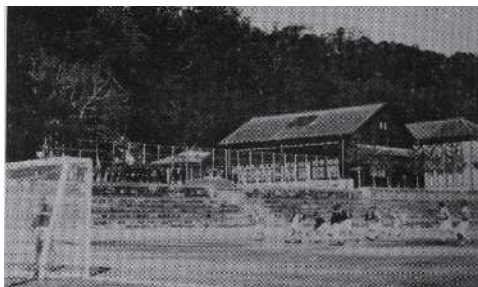
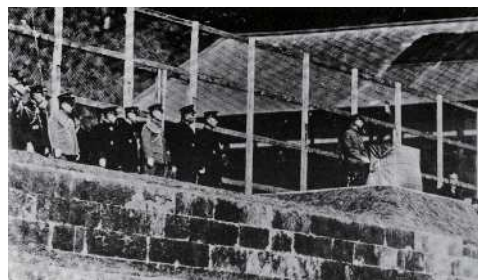
敷地散策のススメ

御野立所跡の碑 (おんのだてじょあとのひ) 〈県立図書館敷地内〉

昭和13(1938)年11月17日建立。
高さは約1.88メートルあります。

昭和10年11月17日、昭和天皇が鹿児島県を行幸された際、官立第七高等学校造士館を視察されたことを記念して、造士館の職員・生徒が3年後の同日に建立した碑です。碑面の文字は島津忠重の書です。

昭和天皇は、造士館教師の研究やホッケーの試合をご覧になりました。ホッケーの試合は当時の運動場(現鹿児島県立図書館)で行われ、玉座は城山側の石段の最上段に設けられました。試合は部員が2チームに分かれて、前半後半ともに15分で戦い、引き分けて終了しました。白熱した試合をご覧になられた場所に碑は建てられました。



▲ 天覧ホッケー試合の様子。造士館ホッケー部は、昭和10年度大日本ホッケー協会九州支部主催のホッケー選手権優勝、昭和11年度第8回全国高校ホッケー大会優勝、昭和12年度第9回全国高校ホッケー大会優勝と、当時は全国屈指の強豪であった。

(引用・参考)

北辰斜にさすところ 第七高等学校造士館50年史
第七高等学校造士館開校百年記念誌 第七高等学校造士館同窓会

会期：令和7年6月12日(木)～ 8月31日(日)

会場：黎明館3階 企画展示室

毎日の暮らしには、仕事や普段の生活の場から冠婚葬祭のハレの場まで、さまざまなシーンがあります。そして、人々はそれぞれのシーンに合わせて服を仕立て、装ってきました。葛や芭蕉など植物の繊維を使った鹿児島県内の特色ある衣服や色鮮やかな晴れ着、可愛い産着等と糸作りから服を仕立てるまでの道具を一緒に紹介します。



背守り付きの産着(男児用)

展示室貸会場イベントスケジュール(2月～4月)

黎明館開館時間(9:00～18:00)

期 間	時 間	イ ベ ント	会 場	観 覧 料	主 催 者 お 問 い 合 わ せ 先 (敬 称 略)	備 考
2/5(水)～2/9(日)	9:00～18:00 (入場時間制限なし)	本野溪舟米寿記念書芸展	第3	無料	本野溪舟	099(243)8561 初日9:00開場 最終日16:00閉場
2/11(火)～2/16(日)	9:00～18:00 (最終日の入場は 15:30まで)	鹿児島大学教育学部 美術専修卒業制作展	第3	無料	鹿児島大学 教育学部美術科	070(2831)1989 初日9:00開場 最終日16:00閉場
2/18(火)～2/24(月)	9:30～18:00 (最終日の入場は 15:30まで)	鹿児島純心女子短期大学デザイン 表現コース卒業制作展2025	第3	無料	鹿児島純心女子短期大学 デザイン表現コース	099(253)2677 初日9:30開場 最終日16:00閉場
3/2(日)～3/9(日)	9:30～18:00 (入場は17:30まで)	第108回 二科展巡回鹿児島展	第2 第3	有料	公益社団法人二科会 鹿児島支部	090(7162)6968 初日9:00開場 最終日16:00閉場
3/13(木)～3/16(日)	9:00～18:00 (入場時間制限なし)	鹿児島大学学友会書道部展 ・桜美(OB)展	第3	無料	鹿児島大学学友会	080(9241)5717 初日9:00開場 最終日16:00閉場
3/14(金)～3/16(日)	9:30～18:00 (最終日の入場は 11:00まで)	KDP合同建築設計展(仮)	第2	無料	かごしま建築学生の会	080(1707)8475 初日13:00開場 最終日12:00閉場
3/19(水)～3/23(日)	9:00～18:00 (入場は17:45まで)	第43回 鹿児島水彩展	第3	無料	鹿児島県水彩協会 龍野克衣	099(282)3157 初日9:00開場 最終日15:00閉場
4/11(金)～4/13(日)	9:30～18:00 (最終日の入場は 15:30まで)	第15回 書道研究誠山会書展	第1	無料	書道研究誠山会 石原誠	090(9583)5216 初日9:00開場 最終日16:00閉場
4/15(火)～4/20(日)	9:00～18:00 (入場は17:00まで)	キャノンフォトクラブ鹿児島 第25回 写真展	第3	無料	キャノンフォトクラブ 鹿児島	090(5085)8507 初日9:00開場 最終日17:00閉場
4/17(木)～4/20(日)	9:00～18:00 (入場時間制限なし)	第30回 寛聚書展	第1	無料	書道研究会寛聚	099(243)3145 初日9:00開場 最終日16:00閉場
4/18(金)～5/6(火)	9:00～18:00 (入場は17:30まで)	恐竜展 ダイナソーメイズ	第2	有料	KTS鹿児島テレビ	099(285)8966 初日9:00開場 最終日18:00閉場

お知らせ

特別展示室の照明がLED化されます。工事にともない、今年度中は第1特別展示室の利用はできませんが、来年度からは生まれ変わった第1特別展示室をご利用いただけます。ぜひ、お楽しみに！

編集
後記

今年度の企画「Anniversary Year! 今年は何周年!」では、今年度に周年をむかえる出来事をピックアップし、関連資料を紹介してきました。長い歴史のなかから、ほんのわずかな出来事や人物しか紹介することはできませんでしたが、時の流れを感じるとともに、黎明館の収蔵資料にも興味を持てただけでしょうか。2025年も様々な出来事や人物が周年をむかえます。歴史や文化に興味をもつ入口として、今年はどんな周年があるのか調べてみるのもいいのかもしれない。(中村)

編集・デザイン 田平晶子 中村友美

Information

※ 展示や催し物等の予定は変更になる場合がありますので、ホームページまたはSNS(Facebook・X・Instagram)にてご確認ください。



開館時間 9:00～18:00(入館は17:30まで)

休 館 日 月曜日(祝日の場合は翌平日)、毎月25日(土・日・祝日の場合は開館)、12月31日～1月2日、そのほか館が定める日

観 覧 料 一般420円 高・大学生260円 小・中学生160円(令和6年度まで)
<年間パスポート>
一般840円 高・大学生520円 小・中学生320円(令和6年度まで)

※障害者手帳の提示で無料 ※団体(20名以上)割引あり ※鹿児島県内に居住する70歳以上無料(令和6年度まで) ※鹿児島県内に居住する18歳以下は、土日祝日は無料(令和6年度まで)

ア ク セ ス 鹿児島空港から鹿児島市内行きバス「市役所前」下車、徒歩7分
JR「鹿児島駅」から徒歩15分
JR「鹿児島中央駅」から市電・バス利用
市電・バス「市役所前」または「水族館口」下車、徒歩7分
鹿児島市内巡回観光バス「薩摩義士碑前」下車すぐ
無料駐車場あり(普通車125台 バス20台)

自転車・バイク・自転車でお越しの方は、②西門をご利用ください。

①御来門および②北門は、多歩者のみ通行可能です。(車椅子での通行はできません。)
車椅子で来場される方には、駐車場まで車でお迎えいただくことをお断りしております。

※臨時通行可時間 黎明館開館日の7:00～18:30(休館日は通り抜けできません)

鹿児島県歴史・美術センター 黎明館

〒892-0853 鹿児島市城山町7番2号
☎099-222-5100 FAX.099-222-5143Follow
us!ホームページ、SNSで
黎明館情報を発信しています。
フォローして、
ぜひチェックしてみてください。

Homepage

Facebook
@reimeikanX
@official_reimeiInstagram
@official_reimei